

【随 筆】

春 爛 漫 で す

住 吉 尚

(釧路支部)

今年は春が「とんでもない！」と思うほどに早いですね。4月1日に妻と2人でクレソンを採りに行ってきましたが、この時期にしてはとて大きくなくなっていました。帰って夕食に食べようと水洗いをしていると、厚岸でクマに襲われたテレビニュースが流れていました。「えー！」私がクレソンを採った所から数kmしか離れていません。そして私が行ったのはクマ事件から1時間後ですから、その辺にいても不思議ではなかったのかな、と思いました。でもクマにしても爺さん婆さんでは襲い甲斐もないと言うもののでしょうか？クマに襲われたのは若い女性だったとか。友人に「犬を連れていてどうして襲われたのですかね？」と聞かれましたが、私にも分かりません。「最近人間もクマも、昔とはすっかり変わってしまったのでさっぱり分かりません！」と答えるのが精いっぱいです。もう私が若かった頃の常識は通用しないのです。



4月1日のクレソン

最近道東に飛来するハクガンが急激に増えています。10年前なら「おー、ハクガンだ！」と言ったものですが、最近では一羽が500羽近い群れが飛び回っています。同じ白でもオオハクチョウは1羽ずつが大きいので大群の飛行でも重々しい群れですが、ハクガンはたくさんの白い羽根がキラキラ光って、右へ左へと群れの動きが変わるごとに大変美しく輝いて見とれてしまうほどです。

このハクガンは道東ではほぼ十勝川下流部でしか見られないガンでした。でも昨年サロベツ遠征の帰りに斜里町で数羽が他のガン類の群れに混じっているのが見え、「おー、こんな所でも見られるのか！」と思ったものです。そして今回は中標津町内の畑で100羽を超える群れを見ることができました。ハクガンはシジュウカラガンと一緒に群れで、100羽程の群れでいましたから、ここでひと休みしてから千島列島沿いにカムチャッカ半島へと移動していくのでしょうか。それにしても10年で100倍近い群れが見られるなんて！日本に飛来してくる群れがどんなに上手く繁殖に成功したにしても、こんなに急激に個体数が増加するとは思われません。それ以前には別の渡りルートを使っていた個体群が、日本に渡る個体に引きずられるようにルートを変えたと思えませんか。私は日本に渡ってくるハクガンがどこで繁殖しているのかを良くは知りませんが、ハクガンの最大の繁殖地はウランゲル島と言われています。またハクガンと同時に見られることが多いシジュウカラガンは、北千島やアリューシャンに新しい繁殖地を人為的に作り繁殖に成功していますから、ハクガンも人為的に作られた新たな繁殖地で増えているのでしょうか？してみるとガン類の渡りは単に本能に支配されているのではないと言うことを示唆しているのでしょう。



中標津町で見たハクガン

今日はタンチョウの繁殖状況を見に根室方面に向かって海岸線に沿って東に行ってみました。去年大きなヒグマを見た幌戸ではタンチョウもクマも見ることにはできずさらに東に。もうすぐ釧路と根室の境目になる東恵茶人（ひがしえさしと）で、何の変哲もないヨシ原にタンチョウが座っていました。こんな所でタンチョウの抱卵を見たのは初めてのことです。



東恵茶人にて 抱卵中のタンチョウ

さらに行って、久しぶりにフレシマと言う所へ行ってみました。道道から砂利道をしばらく行くと急に視界が開け、茫々とした景色にはそぐわない新しい野鳥の会の観察ステーションに着きます。高い木は1本もありません。ただただ広々とした海岸丘陵と典型的な海岸湿原が広がっています。あちこちに池塘があり、野鳥の会の建物を背にして見ると、見渡す限り大きな人工物は見当たらない風景が広がり、今の日本では珍しい景色かもしれません。海岸まで続く細い道路と、馬を放牧していた時に使った壊れかかった柵の跡が見えるだけです。ただ人間の気配がないだけでなく、タンチョウの姿もありません。収穫なし、と言うことで来た道を引き返します。しばらくは林の中の上り坂です。すると目の前の道路上から大きな鳥がすぐ横の林の中へ。濃い茶色の背中では大きなシギ、ヤマシギでしょう。忍者のような鳥で、私は歩いている姿を見たことがありません。いつも逃げていく後ろ姿だけです。藪に入って直ぐ動きを止めました。「確かにこの辺り」と思う所を写真に撮って見ましたが、枯草が写っているだけでした。今度こそ写真に！と思ったのですがね。

さて先日、テレビニュースで春国岱に多数のミヤコドリが飛来していると報じていました。早速観察に出かけようとしたのですが、翌日は獣医師会で相談ごとがあり、直ぐには出かけられません。そしてその翌日は土曜日でした。人がたくさん来ているかと恐る恐る行って見ました。私の予想では到着時には干潮潮止まりと予想して出たのですが、まだまだ潮が高く観察には向いていません。近くの港でチカ釣りをしながら干潮を待ちます。1時半ほど経ったでしょうか？釣りに夢中になっていたので潮はもう上げ潮に変わっていました。猛烈な風、時々アラレ交じりの雨、鳥を観察するにも釣りをするにも、全く

そぐわない天気、それでもチカは50匹ほど釣って、帰りに春国岱の駐車場の前でミヤコドリ2羽を見つけました。ミヤコドリは二枚貝を食べるのに特化した鳥です。薄くてじょうぶな嘴を貝の隙間に突き刺して中身を食べること。でも今日は外洋側が強風で波が高いので内湾で餌を探しているようです。ここでは二枚貝ではなく泥に嘴を差し込みゴカイの仲間を引っ張り出して食べているようでした。土曜日と言うのに釣りしている人も少なく、ミヤコドリを見に来ている人はひとりもいませんでした。結果としては満足できるものでしたが、それにしてもものすごい風です。カメラも風に振られて定まりません。と言うことで、翌々日にもう一度行って見ました。干潮は1日で1時間ぐらいつつ遅れていきますから、釣りをするにも十分な時間があると踏んで出かけました。幸い釣り場に人はおらず、ゆっくり釣りができそうです。風もさほど強くはありません。ところが狙いの魚がいません。あちこち場所を変えてみましたがピクリとも当たりすらありません。花咲港でラッコでも見ようかと足を延ばしてみましたが、収穫なし。戻って今度はミヤコドリ探しです。いました！でも今日は年に数度の大潮の最干潮です。ミヤコドリは干潟の先端に散らばっているのが見えましたが、なんと私からは1km近く離れています。がっかりして帰って来ました。天気が良いのに魚は釣れず、ミヤコドリはたくさんいたのに遠すぎて写真にもならず、がっかりしたせいでしょうか？すっかり風邪をひいてしまいました。この日の帰り道です。厚岸と標茶の境に近い標茶町内です。かなり込んだハンノキの林の中でタンチョウが抱卵しているのが見えました。タンチョウは大きな鳥です。林が混んでいると翼が充分広げられません。更に飛び上がっても樹冠部では枝がほぼ隙間なく茂っていますからなかなか飛び上がられません。こんなことからタンチョウはあまり林の中には入りこまないも



干潟にいるミヤコドリ



ハンノキ林の中のタンチョウ

のでしたが、最近の良い繁殖場所が見つからずにこんな場所を繁殖地を選んだのでしょうか。このタンチョウは多分道路上に飛来し、歩いて巣まで行くのでしょうか。

4月26日には風邪が悪化し寝込むほどに。体調が回復したのは5月1日です。この間にご近所の景色も大きく変わっていました。もう桜が満開なのです。我が家の小さなチシマザクラは4月28日に開花、5月1日には満開となりました。この桜の開花は昨年より6日も早い開花です。温暖化が進んでいるせいでしょうか。我が家の桜が満開となった5月1日には気象台も釧路での桜の開花宣言を出しました。日本中で春が早まっていますね。本州では酷暑が心配されているほどですが、ここ釧路ではのんびり春が楽しめそうです。私が釧路に来た昭和50年代は、釧路のゴールデンウィークはまだまだ気温が低く、この時期に桜が咲く地方がうらやましかったものですが、今では丁度連休と桜が重なるようになりました。場所によっては桜が早すぎて困っている所まであるとか。道内どこの野山も早春の草花で花盛りでしょうね。釧路はやはり湿原が多いので目立つ花と言えばやはりミズバショウでしょうか。早春の野草の花と言えば私が高校生の時に見た旭川周辺のカタクリとエゾエンゴサクの大群落は今でも忘れられません。春の一時期だけです。林の下生えがまるでこの世の物とは思えないほどの美しい花のじゅうたんに変わります。でも釧路周辺ではこれらの花が咲いているのですがなぜか大群落にはなりません。そしてもうひとつ。これから注意しなければならないことがあります。春と言えば山菜採り、と言う人もいますが、今年もギョウジャニンニクで死者が出ています。これからの山菜で事故が多いのはタケノコ採りです。クマに注意、そして迷子にならないように、くれぐれも注意して山に入ってくださいね。

(俳句) たんぽぽや馬小屋朽ちてゆくばかり
(川柳) イカサンマ買えず玉子よお前もか
(都々逸) 診療車 不祥事も 促進事業も ステッカー一枚貼れば 事が済み
(現代漢詩) 禁口外 夜間当番携帯電話 不鳴沈黙夕刻過 口出今夜暇予想 即刻呼出診至急
(幕別町 豆作 (まめさく))

(句題) 温暖化
「温暖化」 さみだれ 五月雨ながき 蝦夷地かな
「冷房が」 蝦夷にも普及温暖化
「蝦夷地にも」 雨季の定着温暖化
(室蘭市 白波瀬 稔歳)

